イラストコーナー

イラスト
出版社の許諾を得られませんでしたので、削除します

郷土こうなあ

ノビタキ　ヒタキ科

大きさ　翼を広げて十三cm
雄は頭部から喉と背中から尾が黒く、胸が橙色。
雌の上面は黒の縦斑があり、腰が橙色。喉は白い。
草原の中で潅木の枝の上や枯れたススキの茎の上等自立つところに止まってそこから飛び立って昆虫を捕らえる。

としょかんのあの人にインタビュー！

今回は中央図書館館長・森田さんにインタビューしました。

森＝森田館長　イ＝インタビュアー　Rio

イ「よろしくお願いします。お名前は？」
森「森田秀敏です」
イ「生年月日と血液型を教えて下さい」
森「昭和二十八年十月十日。O型です」
イ「館長さんは四月から中央図書館に来られましたが、以前はどちらで働かれていましたか？」
森「武蔵野台の図書館で働いていました」
イ「中央図書館に来た時の印象はどうでしたか？」
森「書庫が満杯で整理をちゃんとしなくてはと思いました。それと、職員が他のところ（分館）より多いので、雰囲気づくりをしていこうと思いました」
イ「趣味は何ですか？」
森「読書と音楽鑑賞、それと映画鑑賞とか…観たり聴いたりするのが好きです。あと、散歩ですかね」
イ「多摩川沿いを歩いたりしますか？」
森「はい。都内で散歩したりもします」↘

イ「自信を持って発表できる特技はありますか？」
森「特技…特には（笑）」
イ「中学生や高校生の頃、はまっていたことなどありますか？」
森「中学生の頃はバスケットボールですね。部活をしていたので。高校生の時は、生徒会活動と考古学。歴史の本を読んだりしました」
イ「マイブームは？」
森「娘のジョニー・デップ好きにつきあうこと（笑）」
イ「スパリおすすめの本を一冊！」
森「一冊ですか？そうですね…ヨハンナ・スピリの『アルプスの少女ハイジ』。私が中学生の頃よく読んでいました」
イ「最後に利用者の方へ一言！」
森「図書館はワンダーランドです！（笑顔）」

館長の森田さん、お忙しい中、インタビューにお答えいただきありがとうございました☆

ぼくのわたしのオススメ作家

私が、オススメする作家さんは、機部数子さんです。主な作品は、『僕の生きる道』『ファイト①②』などです。私が、この作家に出会ったのは、中学2年のときでした。

まずは、ドラマのノベライズ本をきっかけに、機部数子の独特の世界に、興味をもちはじめました。あなたも、是非、機部数子の独特の世界を、あじわってみてください。ハマりますよ！

僕は作家で選ばずジャンルで読む本を選んでいます。好きなジャンルは、ファンタジーなのですが、ファンタジーの面白い所は魔法や幽霊の在り方が本ごとに違う所です。例えば魔と妖怪の違いとか、魔法を使える人や使い方の違いを僕は読み比べています。

私のオススメする作家さんは『キノの旅』や『アリソン』などを書いている時雨沢恵一さんです。シリアスなところもあれば笑えるところもある、お話のスタイルが特徴です。ちょっとふさけたあとがきがとてもおもしろいです。ファンタジーと銃と二輪車）が好きな方は時雨沢恵一さんの本をオススメします！

Rio

私の好きな作家さんは、J・K・ローリングさんです。J・K・ローリングさんは、みんなも知っているハリーポッターシリーズの作者さんです。

私は、この映画が好きなので紹介しました。ぜひ読んで見てください。

あなたは『名探偵』を知っていますか？それも、本でいっぱいの洋館に住み、黒ずくめの服を来て、食べ物に目が無い。でも、推理の方は百発百中という、なんとも可笑しな『名探偵』夢水清志郎の事を。

このお話は、ある三つ子の姉妹と、その家の隣に住む、可笑しいけれど凄い探偵の物語。そして今回紹介したい作家さんは、この『夢水清志郎事件ノート』シリーズでおなじみの、はやみねかおるさんです。はやみね先生は現在、現の父親でもあり、作品の方は一度読むと止まらないのが特徴。“分厚いけれど楽しめる。”と言うファンの発言も多いです。ほとんど学生が主役なので、中高校生には特にお勧め。また、前号の本の紹介の方では『都会のトム&ソーヤ』を紹介しておりますので興味のある方は是非読んでみるべし。読むたびに不思議な世界へ連れて行ってくれる・・・皆様も、はやみねワールドに足を踏み入れてみては？

CLAMPさんは独特な物語を描く漫画家です。とても仕事が速いと有名でもあります。今は『ツバサ』と『××HOLIC』をそれぞれ雑誌に連載しています。CLAMPさんのマンガは色々深く考えさせられるものばかりです。言われてみれば…と思うこと、「そんなものもあったのか…」と思うことが多くあります。新しい雰囲気のマンガのようで新鮮な気持ちで読めるので是非見て下さい。

小泉左多里さん…名前と聞いただけでは、いまいちピンとこないかと思いますが、このタイトルをだせばわかると思います…『ダーリン』は外国人』の作者です。

私が小泉さんの本と出会ったのはまさにこの本です。他にもいろいろな本をだしているそうですが、はっきりいってどういう本かわかりません。…なので『ダーリン』の紹介を少し…

小泉さんと旦那さん（…ハンガリーとイタリアのハーフのトニーさん）との国際結婚の生活をかいた漫画です。

国際結婚とは甘い生活と思いきや、“えっ？”と思ってしまいます。それと同時に“小泉さんはよく見ているなあ”と関心してしまいます。

私は（先ほども書きましたが）この本しか読んだことがありません。ですが、これを機会に他の小泉さんの本を読んでみたいと思いました♪

連

編集後記

新コーナーも加わり、ついに一周年突破!!!これからも宜しくお願いいたします。

リーダー

いつのまにか高校生。はやいですねぇ(^^)小説のほうはこれからおもしろくなる!!…つもりです…。みんな読んで!!

Charlie チャーリー

二周年をむかえたら自分は、高校生になってましたこれからもこの新聞をよろしくおねがいしますあと新しいタイトルもなれてくれたらうれしいです。

スゴイです、四号にして一周年ですよ。私も一年をとったってことですね。このまま二周年、三周年続けたいです。

連

第四号にして改名。そして一周年!!みんなと出会ってから一年。これからもよろしくお願いします。

Rio

いつのまにやら一周年……。誰か男子来て下さい。誰でもいいので…。

第四号も読んでみてください。

F